

令和４年度 第２回 豊能町地域公共交通会議 議事概要

日 時：令和４年７月２６日（火）午前１０時から正午まで

会 場：豊能町役場２階大会議室

出席者：委員１４名、事務局４名

（詳細は別紙「令和４年度第２回会議出席者名簿」のとおり）

傍聴者：６名

１．開会

午前１０時に開会した。

２．《協議》豊能町地域公共交通会議規則の改正について

（１）以下の事項について事務局より説明があった。

①豊能町地域公共交通会議規則の改正について

②豊能町地域公共交通会議規則（改定案）

（２）主な質疑・意見

- ・質疑・意見が無かったことから、本事項について採決がなされ、委員の合意を得ることとなり、本会議での協議が調った。

３．《協議》豊能町地域公共交通計画の策定について

（１）以下の事項について事務局より説明があった。

①「豊能町地域公共交通計画」の策定に向けて

②町民アンケート調査票について

（２）主な質疑・意見

〔事務局〕 資料３、４に基づき説明。

〔委 員〕 「地域公共交通確保維持事業」の補助対象を教えてください。

〔事務局〕 バス路線等の乗合交通の維持や、車両購入等が対象となる。

〔委 員〕 「地域公共交通確保維持事業」の補助と、現在赤字路線へ行政が実施している補填との兼ね合いはどうなるのか。また補助の時期はいつ頃か。

〔委 員〕 本補助金は、町が単独で補助している現在のものとは別のものである。なお、本補助金の活用有無は、運行事業者である阪急バスの判断も必要となる。豊能町では、令和６年３月の計画完成を踏まえ、令和６年６月に補助申請を提出し、令和６年１０月から補助とできる。なお、補助を得る場合には、本計画で明確に位置付ける必要がある。

〔委 員〕 地域公共交通とまちづくりとの一体性は重要と認識している。クロスセクター効果の視点では、多様な計画との連携も必要であるが、例えば教育や産業等の計画に対して連携を呼びかけることは可能か。

〔事務局〕 計画策定では、庁内連携の重要性を認識している。積極的に庁内連携を図りたい。

〔委 員〕 町民アンケートでは、町内で地域公共交通のインフラが希薄な地区の意見の拾い上げが計画策定のうえで重要かと思う。

〔事務局〕 町民アンケートでは、抽出の際に工夫をして、町民の声を拾い上げる。

〔委 員〕 町民アンケートは、いつ頃の実施予定か。

〔事務局〕 アンケートは年内に完了したい。調査は本日の協議を反映して進める。

(3) 計画策定に向けた現状や課題認識に係る意見交換

〔委員〕 バス路線は、現状の輸送を続けても先細りになるように思う。今回の計画策定で、各バス路線をどのように位置付けて住民の移動手段を確保するか、皆さんと相談しつつ進めたい。

〔委員〕 デマンドタクシー実証実験では、7月1日～20日で約300便・340名にご利用いただいた。8割が西地区の利用になっている。予約には全て対応できている。

〔委員〕 タクシー業界では、人員確保が変難しくなっている。地域での担い手確保への支援等を考えていただきたい。

〔委員〕 地域公共交通を守るのは住民の責務である。牧地域では、放棄された棚田活用の取組を進めている。参加者は、交通の便が便利ならもっと参加できるという声もある。町外から人を呼んで活性化するには、交通の便が重要である。以前には、福祉施設で昼間利用していない車両を地域公共交通に使うこともあったと思うので、そういう視点も必要かと思う。

〔委員〕 今回の計画では、地域住民の移動及び観光を考えて策定いただきたい。運転手不足は、タクシー・バスとも大きな問題となっている。令和6年4月の労働基準法改正では、現行の乗務員体制でのダイヤ維持ができなくなる。バス・タクシーを利用して維持頂くことが重要である。

〔委員〕 バス・タクシーを維持しながら、これを補完する交通の検討など、皆さんの意見を盛り込んでよい計画としていただきたい。

〔委員〕 道路管理者として、バス停の道路占用等へ速やかに対応していきたい。一住民としては、豊能町内の観光資源や産業等について、自家用車から地域公共交通に振り替えられる取組みがあるとよい。

〔委員〕 7月1日から、阪急バス豊能西線は、路線変更により千里中央へ接続しており、平日平均約70人/日（交通系ICカードでの利用者）の利用がある。豊能西線全体では約700人/日で、6月と比較し約1割減である。

〔委員〕 AIオンデマンド交通の実証実験では、よりピンポイントで町内を移動できるので、高齢者等には利便性が向上すると感じる。期待したい。

〔委員〕 能勢電鉄線は、乗降人員のピーク1995年に対し、コロナ禍前で6割、現在は半分である。運行ダイヤは、現在昼間10分間隔だが、昭和50年頃は20分間隔であった。10分間隔を維持したいが、将来的には利用実態に合わせたダイヤを考えていかないといけない。町内3駅の駅前広場やバリアフリー設備は、他市町と比較し整っている。

〔委員〕 高齢化で免許返納が進む今後に対し、地域公共交通を利用いただけるようにしたい。福祉と交通の境目が見えにくくなってきていることが課題と考える。民間事業者との話し合いでは、定時定路線型路線の維持が難しくなっている。適切なものを考えていきたい。

〔委員〕 豊能町では、外出支援事業「おでかけくん」を2台で運行しており、利用件数は増加傾向にある。求められるのは、要介護の方等、公共交通を利用できない人の移動を守ることである。AIオンデマンド交通等とおでかけくんの役割分担を考えていきたい。

〔委員〕 箕面有料道路利用者アンケートでは、1万台/日のうち豊能町在住者が約

1/4である。こうした結果は、参考までに後日事務局へ提供する。

〔委員〕 資金や乗務員等に限られる中で、出来るだけ使いやすい地域公共交通としたい。町民の利用意識を醸成し、交通事業者の努力を継続し、そして行政が財政支援する。町民が地域公共交通の状況を知らないことから、まずは知ってもらって利用促進に繋げる必要がある。また、あらたな利用体験に繋がるPRなど、利用目的の増加が重要である。

もう一点は、バス・タクシー・鉄道の事業者間・モード間連携である。金銭的、あるいは待ち環境など、連携の中で乗り継ぎ抵抗を低下させる取り組みが必要である。

〔委員〕 皆様から多様な意見を頂いた。大事な町民の税金を使って、観光まで手を出すか、どこまで支援するかという視点、クロスセクター効果の視点、乗り継ぎのデザイン、人材確保、AI オンデマンド交通等の視点を反映しつつ各種調査を進めていってほしい。

4.《協議》豊能町地域公共交通計画の策定について

(1)以下の事項について事務局より説明があった。

①AI オンデマンド交通の実証実験について

(2)主な質疑・意見

〔委員〕 運行の際は、狭い道を通る可能性があるか。

また、既存のバス路線へ負の影響が生じないか。

運賃は、無料から有償となると抵抗があるのではないか。

〔事務局〕 運行可能な道路は、運行管理システムで設定する。運行時は、予約状況に応じ最適なルートはAIが判断する。ミーティングポイントは、現段階の想定であり、今後警察・道路管理者と調整したい。

運賃は、まずはこのサービスを知ってもらうため、短期間のイベントとして無償で運行する。今回の結果を踏まえ、有償運行につなげていく。運行内容は、阪急バスとも協議のうえ、了解頂いている。

〔委員〕 猪名川町では、路線バスを休止のうえAI オンデマンド交通を開始しており、豊能町と条件が異なるが、無償から有償化により、利用が約7割程度に減少した。道路の使用では、迎車の5分前にミーティングポイントに居よう利用者へ要請することで、狭い道での待機はない。

〔委員〕 タクシー事業者の意見はどうか。

〔委員〕 西地区は利用者の多い地区で、一般タクシーの減収への懸念はある。しかしながら、AI オンデマンド交通には、タクシー事業者が運行事業者として参画していることから、今回の実証実験へ反対するものではない。

〔委員〕 デマンド交通の事例には、実施主体に自動車販売会社が入っている地域もある。今後は、豊能町でも要請がありうるのではないか。

〔委員〕 令和4年度の実証運行は内閣府の「デジタル田園都市国家構想推進交付金」を活用するとして、令和5年度以降も内閣府から補助が出るのか。町からの支援を前提とする場合は、どの程度の負担なら許容できるのか、あわせて検証いただきたい。

〔事務局〕 自動車販売会社の参画は、申し出があれば、協議していきたい。

事業費について、内閣府補助金は、令和４年度事業のみが対象であり、来年度以降は、別の補助金や財源を確保する必要がある。実証実験で、事業性・採算性をしっかり検討したい。

〔委員〕 猪名川町の事例は、自動車販売会社が実施主体である。経費は、サポーター制度をとっており、一番大きなスポンサーを猪名川町としている。

〔委員〕 AI オンデマンド交通を導入する意義を確認したい。今回の実証実験では、予約方法として電話があるためオペレータが必要となるが、運行事業者側の利点があるか。また、利用者側にとっても期待があるか。

〔委員〕 「実証実験の目的」は、資料の内容で問題ないと思うが、委員の意見は、課題の整理が必要ではという指摘かと思う。この内容は、実証実験に当たり別途設置される協議会で議論する内容かと思う。当交通会議としては、地域公共交通計画にどう反映していくかもあわせて検討すべきではないか。

〔事務局〕 路線バスは、昼間の利用者数が少ないことから、効率的に乗り合う仕組みとして、AI オンデマンド交通を検討している。実証実験では、利用者にとって利用に予約が必要となる一方で、買い物等の日中の利用は、利用者により移動したい時間が異なるため、移動しやすくなると考える。

〔委員〕 電話予約は、運行事業者に新たな負担をもたらすのではないか。この事業の目的として、電話予約をなるべく減らすことも１つの目的になる。

〔委員〕 「(仮)AI オンデマンド交通実証実験運営協議会」で、実証実験の目的設定を議論頂きたい。

・以上、質疑応答のあと、本事項について異議の確認があり、一同異議なしとなった。

5. その他

(1) 以下の事項について委員より説明があった。

〔委員〕 豊能西線は、今後箕面森町の工業団地内に「箕面森町西」停留所を設置する。また、みのおキューズモール前の「白島」停留所への停車（豊能町行は乗車のみ、千里中央行は降車のみ）を開始する。

6. 閉会

(1) 正午に閉会した。